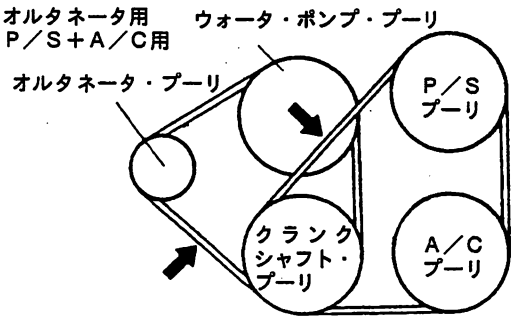
エンジン

ドライブ・ベルト ..... B－1
　ドライブ・ベルト点検 ..... B－1
　ドライブ・ベルト調整 ..... B－2
バルブ・クリアランス ..... B－2
　バルブ・クリアランス点検 ..... B－2
　バルブ・クリアランス調整 ..... B－3
圧縮圧力点検 ..... B－5
タイミング・ベルト ..... B－6
　タイミング・ベルト取外し／取付け ..... B－6
シリンダ・ヘッド・ガスケット ..... B－10
　シリンダ・ヘッド・ガスケット交換 ..... B－10
タペット、アジャスト・シム ..... B－12
　タペット、アジャスト・シム
　　取外し／取付け ..... B－12
フロント・オイル・シール ..... B－14
　フロント・オイル・シール交換 ..... B－14
リヤ・オイル・シール ..... B－15
　リヤ・オイル・シール交換 ..... B－15
エンジン ..... B－16
　エンジン取外し／取付け ..... B－16
　エンジン分解／組付け ..... B－18

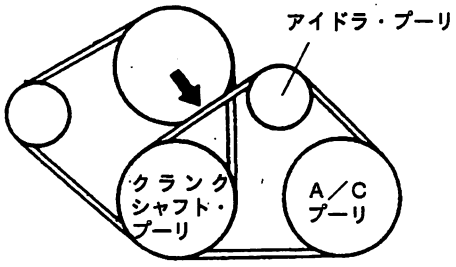
ドライブ・ベルト

注意

- ベルトのたわみ量点検は、定められたプーリ間で点検する。
- 新品のベルトに交換する場合は、「新品時」のたわみ量／張力に調整する。
- 「新品時」のたわみ量／張力は、使用時間5分未満のものに適用し、5分以上経過したものについて張り直しを行う時は、「張り直し時」のたわみ量／張力に調整し直す。
- 使用過程中のベルトで「張り直し限度」を超えるものについては、「張り直し時」のたわみ量／張力に調整し直す。
- ベルトたわみ量／張力点検は、エンジン冷間時（エンジン停止後30分以上放置後）に行う。



A／C用



ドライブ・ベルト点検

- 図示箇所、プーリ間中央のベルト背面に 98 N {10 kgf} の押力を加え、たわみ量を点検する。または、テンション・ゲージを使用して、張力を点検する。

ベルトたわみ量［98 N {10 kgf} 押力時］　mm

	新品時	張り直し時	張り直し限度
オルタネータ用	5.5～7.0	6.0～7.5	8.0
A／C、P／S＋A／C用	8.0～9.0	9.0～10.0	11.5

- 張り直し限度以上の時は張り直す。（参照：ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト調整）

参考

- ベルト張力は、どのプーリ間で測定してもよい。

ベルト張力［テンション・ゲージ使用時の張力標準値］　N {kgf}

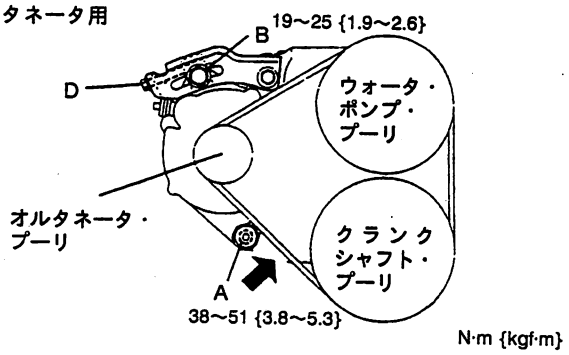
	新品時	張り直し時	張り直し限度
オルタネータ用	491～745 {50～76}	491～706 {50～72}	343 {35}
A／C、P／S＋A／C用	491～588 {50～60}	422～490 {43～50}	245 {25}

- 張り直し限度以下の時は張り直す。（参照：ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト調整）

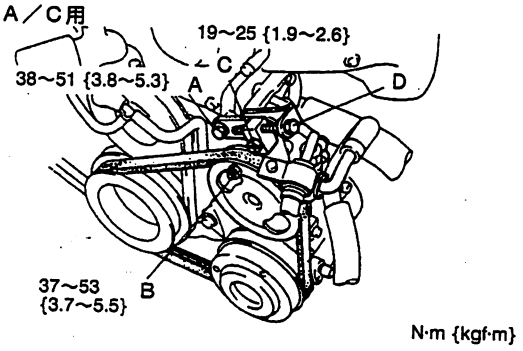
ドライブ・ベルト調整

1. 図示A、B及びCを緩める。
2. 図示Dでベルトのたわみ量／張力を標準値内に調整する。(参照：ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト点検)
3. 図示A、B及びCを締付ける。

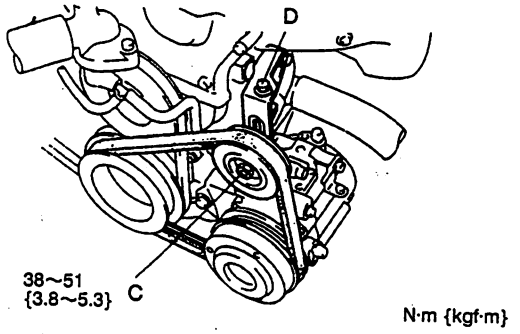
オルタネータ用



P／S＋A／C用



A／C用

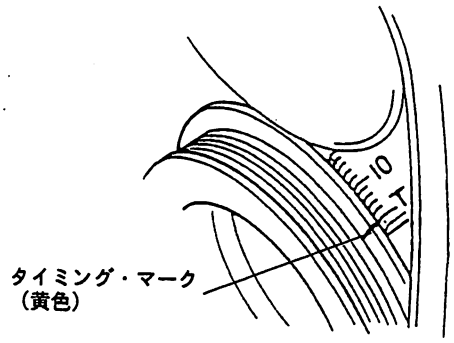


4. ドライブ・ベルトのたわみ量／張力を点検する。(参照：ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト点検)

バルブ・クリアランス

バルブ・クリアランス点検

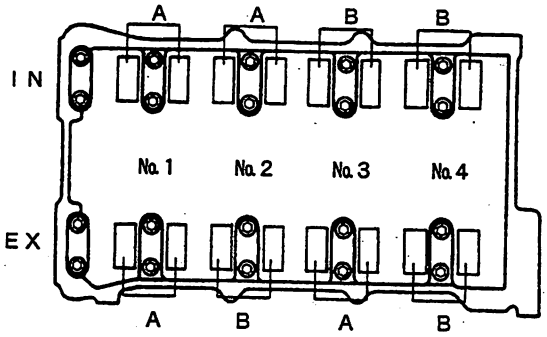
1. シリンダ・ヘッド・カバーを取外す。
2. バルブ・クリアランスを測定する。
   (1) クランクシャフトを正回転させ、No.1シリンダを圧縮上死点にする。



   (2) 図示箇所Aのバルブ・クリアランスを測定する。

標準値

IN：0.20±0.03mm [冷間] (B6-ZE [RS])
EX：0.30±0.03mm [冷間] (B6-ZE [RS])
IN：0.21±0.03mm [冷間] (BP-ZE [RS])
EX：0.31±0.03mm [冷間] (BP-ZE [RS])



   (3) 標準値外の場合は、アジャスト・シムを交換しバルブ・クリアランスを標準値の中央値に調整する。(参照：バルブ・クリアランス、バルブ・クリアランス調整)
   (4) クランクシャフトを正回転方向に360°回転させ、No.4シリンダを圧縮上死点にする。
   (5) 図示箇所Bのバルブ・クリアランスを測定する。

標準値

IN：0.20±0.03mm [冷間] (B6-ZE [RS])
EX：0.30±0.03mm [冷間] (B6-ZE [RS])
IN：0.21±0.03mm [冷間] (BP-ZE [RS])
EX：0.31±0.03mm [冷間] (BP-ZE [RS])

(6) 標準値外の場合は、アジャスト・シムを交換しバルブ・クリアランスを標準値の中央値に調整する。(参照：バルブ・クリアランス、バルブ・クリアランス調整)

3. シリンダ・ヘッド・カバーを取付ける。(参照：シリンダ・ヘッド・ガスケット、シリンダ・ヘッド・ガスケット交換、シリンダ・ヘッド・カバー取付け時の留意点)

バルブ・クリアランス調整

1. クランクシャフトを正回転させ、アジャスト・シム交換箇所のカム山を真上に向ける。

注意

- **ＳＳＴの取付けは、カムシャフトの曲がりを防ぐため、隣り合うカムシャフト・キャップ・ボルトを取外さない。また、カムシャフト・キャップ・ボルトは３本以上取外さない。**

2. 下記項目を選択して図示のようにＳＳＴを取付ける。

Ａ：ＥＸ側の№１、２、３シリンダのアジャスト・シムを交換する場合は、ボルトＡを取外してＳＳＴを取付ける。

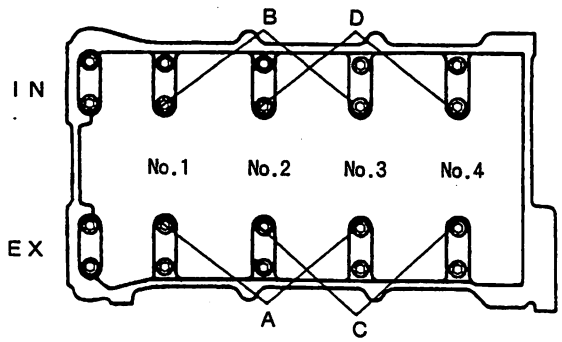
Ｂ：ＩＮ側の№１、２、３シリンダのアジャスト・シムを交換する場合は、ボルトＢを取外してＳＳＴを取付ける。

Ｃ：ＥＸ側の№２、３、４シリンダのアジャスト・シムを交換する場合は、ボルトＣを取外してＳＳＴを取付ける。

Ｄ：ＩＮ側の№２、３、４シリンダのアジャスト・シムを交換する場合は、ボルトＤを取外してＳＳＴを取付ける。

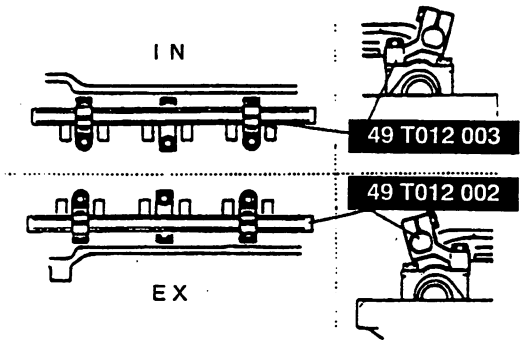
締付けトルク

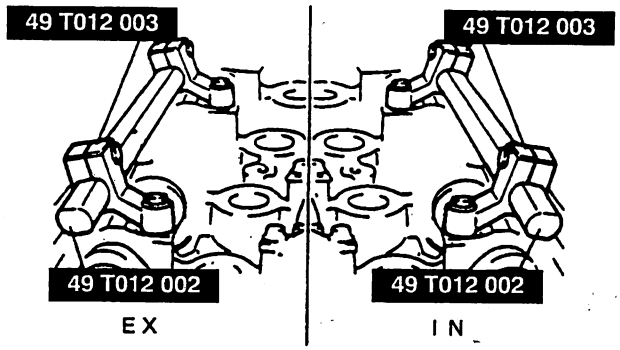
11.3～14.2 N·m {115～145 kgf·cm}



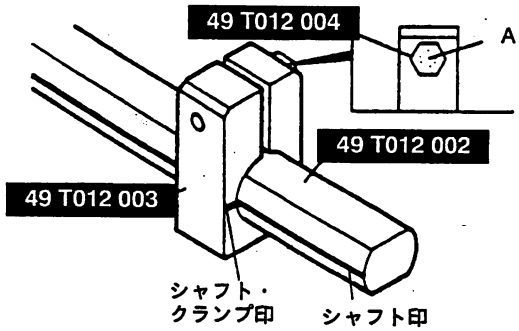
参考

- №２、３シリンダのＥＸ側アジャスト・シム交換はＡとＣのどちらでもよい。
- №２、３シリンダのＩＮ側アジャスト・シム交換はＢとＤのどちらでもよい。

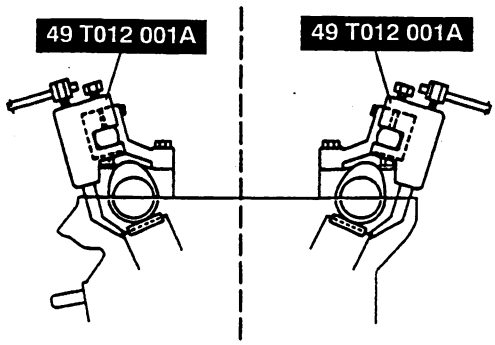




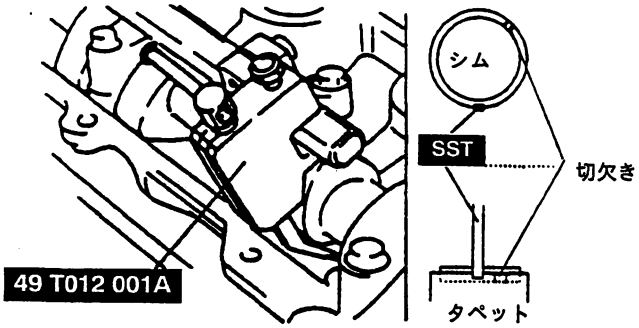
3. ＳＳＴのシャフト印をシャフト・クランプ印に合わせる。
4. ＳＳＴのボルトＡを締付けＳＳＴ（シャフト）を固定する。



5. 交換するアジャスト・シムの位置にＳＳＴ（ボデー）をシリンダ・ヘッドの外側に向けて取付ける。



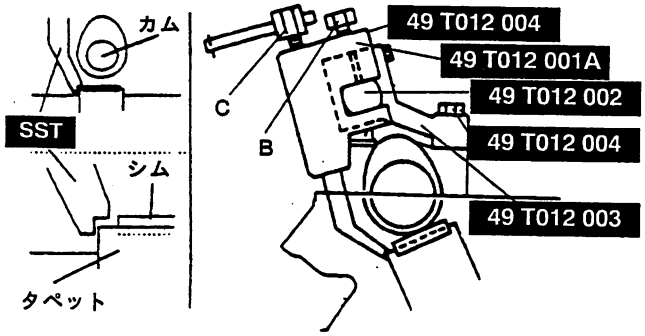
6. タペットの切欠きを精密ドライバの挿入できる位置にする。



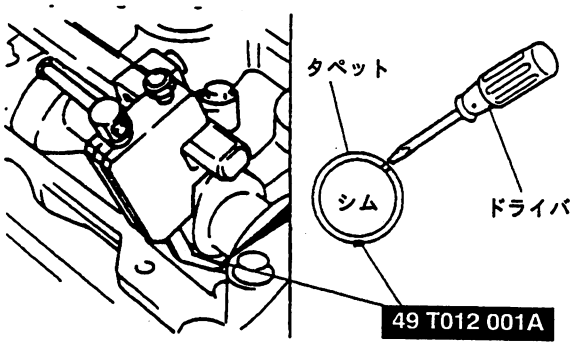
7. ＳＳＴの切欠きをタペットに引っ掛ける。
8. ＳＳＴのボルトＢを締付けＳＳＴ（ボデー）を固定する。

注意
- タペットを押下げる時、ＳＳＴ（ボデー）の先端でシリンダ・ヘッドを傷付けないようにする。

9. ＳＳＴのボルトＣを締付け、タペットを押下げる。



10. アジャスト・シムをタペットの切欠きから精密ドライバで持上げ、マグネットを使用して取外す。



11. アジャスト・シムを選択する。

参考
- 選択シム＝取外したシムの厚さ＋測定バルブ・クリアランス－基準バルブ・クリアランス（B6-ZE [RS] ：0.20 mm [IN]、0.30 mm [EX]、BP-ZE [RS] ：0.21 mm [IN]、0.31 mm [EX]）

12. アジャスト・シムをタペットに押込む。
13. ボルトＣを緩め、タペットを上昇させる。
14. ボルトＢを緩め、ＳＳＴ（ボデー）を取外す。
15. ＳＳＴを取外し、カムシャフト・キャップ・ボルトを締付ける。

締付けトルク
11.3～14.2 N·m {115～145 kgf·cm}

16. バルブ・クリアランスを点検する。（参照：バルブ・クリアランス、バルブ・クリアランス点検）

圧縮圧力点検

警告

- **火傷の恐れがある為、各部取外し／取付け作業には注意する。**

1. バッテリが完全充電状態であることを確認する。（参照：セクションG、充放電装置系統、バッテリ点検、バッテリ）
2. エンジンを暖機する。

警告

- **燃圧を下げる為、作業前に燃料飛散防止作業を行い、サーキット・オープニング・リレーを取外しておく。（参考：セクションF、燃料装置系統、作業前の注意点）**

3. 排気系の温度を下げるため、エンジンを停止して約10分間放置する。
4. スパーク・プラグを全て取外す。
5. イグニッション・コイルのコネクタを切離す。
6. 次の手順で圧縮圧力を測定する。
   (1) コンプレッション・ゲージをスパーク・プラグ穴に押しあてる。
   (2) スロットル・バルブを全開にする。
   (3) エンジンをクランキングし、圧縮圧力を測定する。

項目		エンジン	
		B6-ZE [RS]	BP-ZE [RS]
圧縮圧力 (kPa{kg/cm²} [rpm])	標準値	1461{14.9} [300]	1442{14.7} [300]
	限度値	1023{10.43} [300]	1009{10.29} [300]
	気筒間差	196 kPa {2.0 kg/cm²} 以内	

   (4) 全てのシリンダについて前記（1）～（3）項の作業を行う。
   (5) 測定値が限度値以下、または気筒間差が2.0 kg/cm² 以上のシリンダがある場合は、スパーク・プラグ穴から少量のエンジン・オイルを加えて、前記（1）～（3）項の作業を行う。
      ① オイルを加えて圧力が上がれば、ピストン・リングとシリンダ壁面が摩耗、損傷していることが考えられるので、分解整備を行う。
      ② オイルを注入しても圧力が変わらないときは、バルブの焼付き、バルブの当り不良、シリンダ・ヘッド・ガスケットからの圧力漏れが考えられるので、分解整備を行う。
7. イグニッション・コイルのコネクタを接続する。
8. サーキット・オープニング・リレーを取付ける。
9. スパーク・プラグを取付ける。

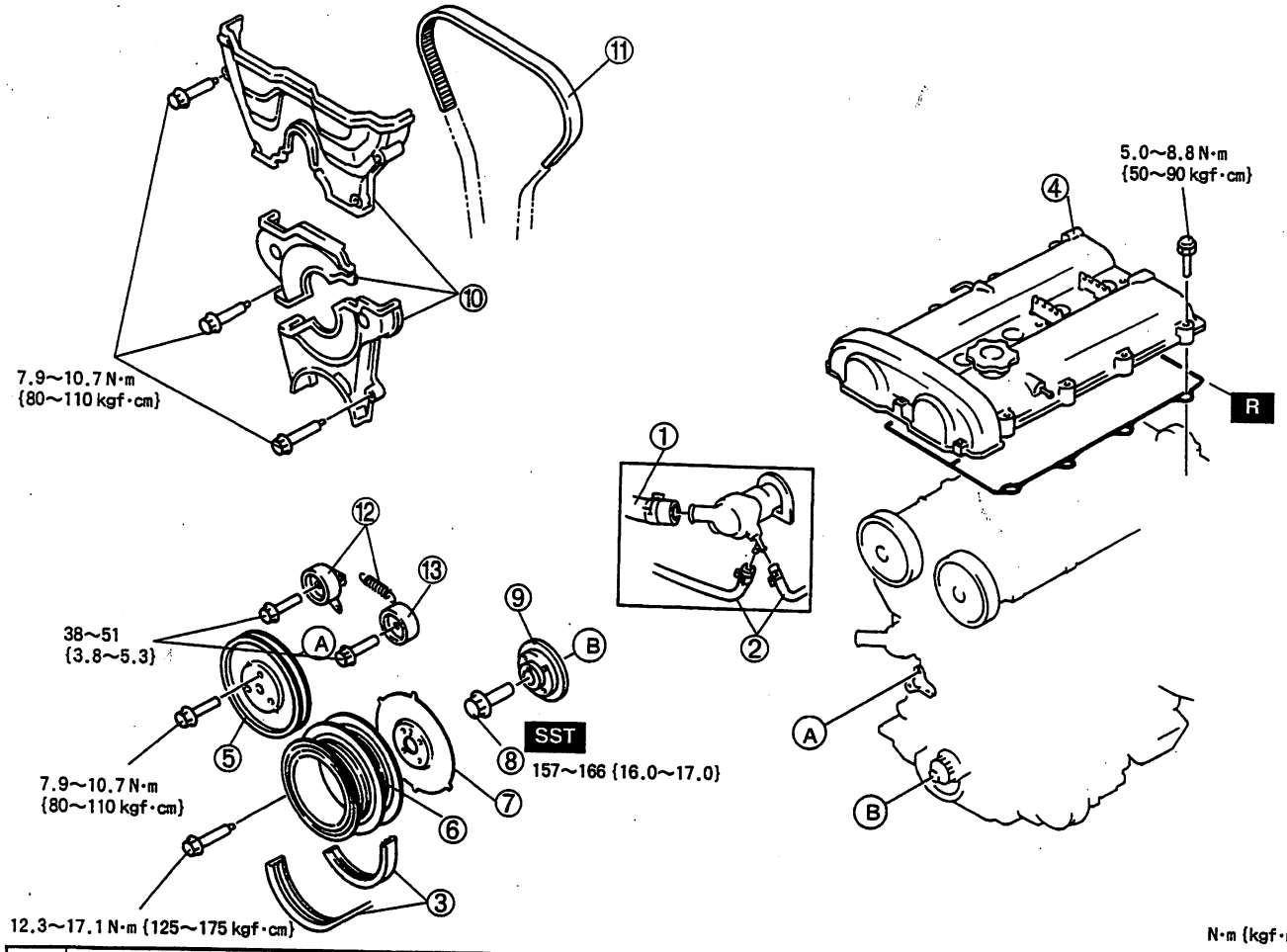
締付けトルク
15～22 N·m {1.5～2.3 kgf·m}

B

タイミング・ベルト

タイミング・ベルト取外し／取付け

1. バッテリ（－）ケーブルを切離す。
2. 冷却水を抜取る。（参照：セクションE、冷却水、冷却水交換）
3. エア・ホースを取外す。
4. カムシャフト・ポジション・センサ、クランクシャフト・ポジション・センサを取外す。
5. ハイテンション・コード、イグニッション・コイルを取外す。（参照：セクションG、点火装置系統、イグニッション・コイル取外し／取付け）
6. スパーク・プラグを取外す。
7. 図に示す手順で取外す。
8. 取外しと逆の手順で取付ける。
9. エア・ギャップを点検する。（参照：セクションF、制御装置系統、クランクシャフト・ポジション・センサ点検）
10. エンジンを始動して、下記項目の点検、調整を行う。
    (1) プーリ、ベルトの振れ、接触
    (2) 点火時期（参照：セクションF、エンジン調整、点火時期点検）



N·m {kgf·m}

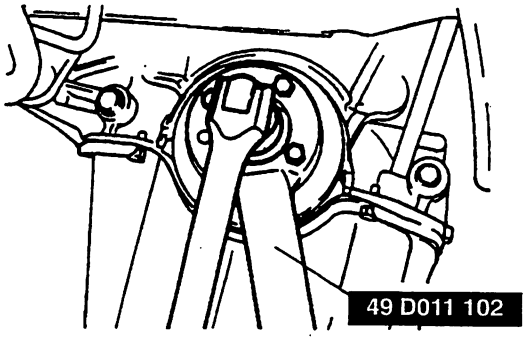
1	アッパ・ラジエータ・ホース
2	ウォータ・ホース
3	ドライブ・ベルト ☞ ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト点検
4	シリンダ・ヘッド・カバー ☞ 取付け時の留意点
5	ウォータ・ポンプ・プーリ

6	クランクシャフト・プーリ
7	プレート
8	プーリ・ロック・ボルト ☞ 取外し／取付け時の留意点
9	プーリ・ボス
10	タイミング・ベルト・カバー

11	タイミング・ベルト ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点
12	テンショナ、テンショナ・スプリング ☞ 取付け時の留意点
13	アイドラ

プーリ・ロック・ボルト取外し／取付け時の留意点

- ＳＳＴを使用して、クランクシャフトの回り止めを行う。

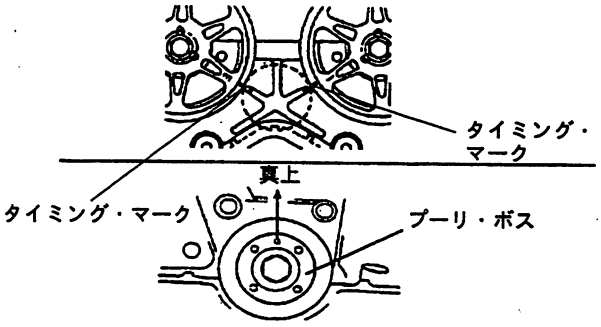


タイミング・ベルト取外し時の留意点

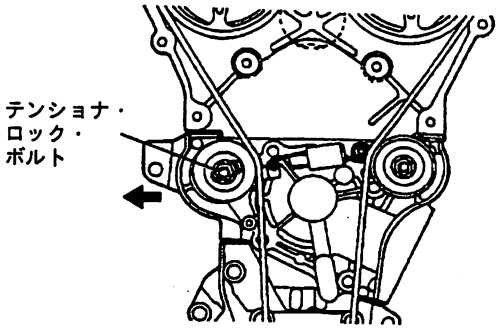
1. クランクシャフトにプーリ・ボス、プーリ・ロック・ボルトを仮締めする。
2. クランクシャフトを正回転方向に回し、タイミング・マークを合わせる。

参考

- クランクシャフト側はプーリ・ボスの位置決めピンが真上にあればよい。



3. テンショナ・ロック・ボルトをゆるめ、テンショナを左側に引張った状態でテンショナ・ロック・ボルトを仮締めする。

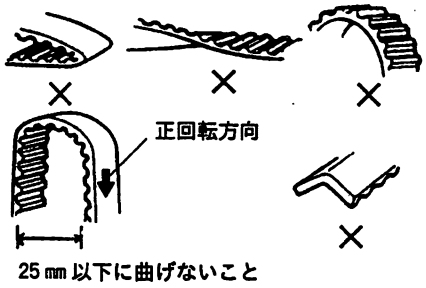


参考

- タイミング・ベルトを再使用する場合はベルト背面に正回転方向を示す矢印等を付けておく。

注意

- **タイミング・ベルトは強くねじったり、裏返したり、折り曲げたりしない。タイミング・ベルトに水、ゴミ、油脂類などを付着させない。**

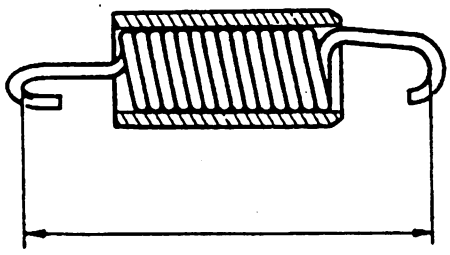


テンショナ、テンショナ・スプリング取付け時の留意点

1. ノギス等を使用してテンショナ・スプリングの自由長を測定し、標準値外の場合は交換する。

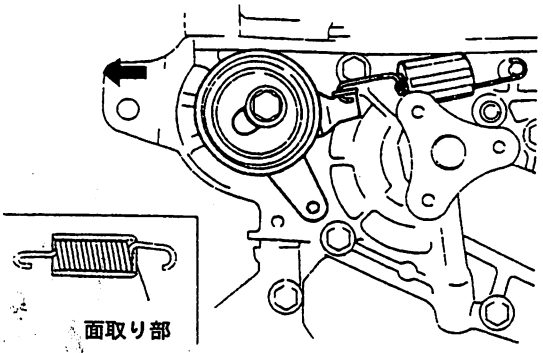
標準値

59.2 mm



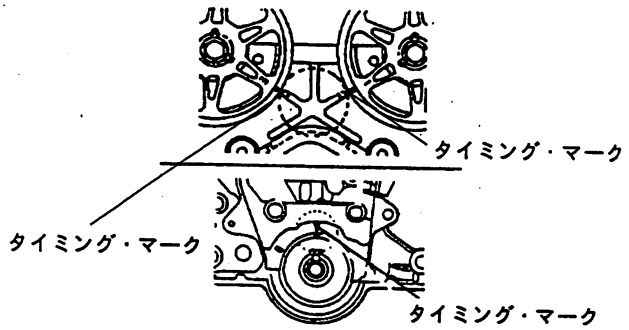
2. テンショナを取付ける。
3. 図示のように防振ラバーの面取り部が右側になるように、テンショナ・スプリングを取付ける。

4. テンショナを左側に引張った状態でテンショナ・ロック・ボルトを仮締めする。

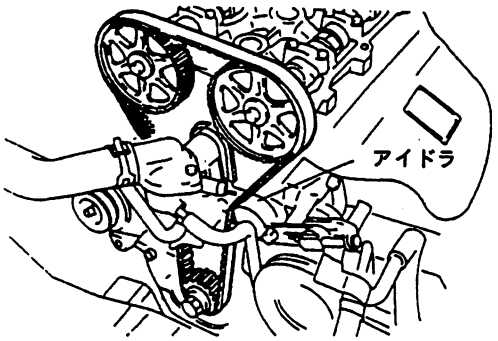


タイミング・ベルト取付け時の留意点

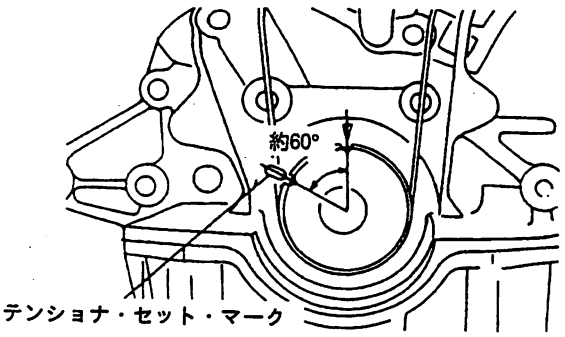
1. 各プーリのタイミング・マークが図の位置に合っていることを確認する。



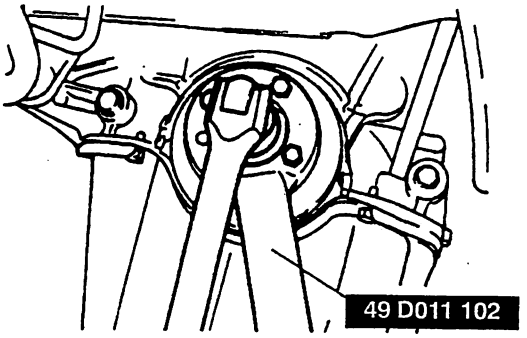
2. アイドラ側及びカムシャフト・プーリ間がたるまないようにタイミング・ベルトを取付ける。



3. クランクシャフトにプーリ・ボス、プーリ・ロック・ボルトを仮締めする。
4. クランクシャフトを正回転1·5/6回転させ、テンショナ・セット・マークに合わせる。



5. ＳＳＴを使用して、クランクシャフトの回り止めをし、プーリ・ロック・ボルト、プーリ・ボスを取外す。



6. タイミング・ベルト・プーリの切り欠きとテンショナ・セット・マークが合っていることを確認する。
7. テンショナ・ロック・ボルトをゆるめてベルトに張りを与える。

注意

- このときテンショナ・スプリング力以外の力を加えないようにする。
- ロック・ボルト締付け時、テンショナがボルト座面に引きずられて動かないようにする。

8. テンショナ・ロック・ボルトを締付ける。

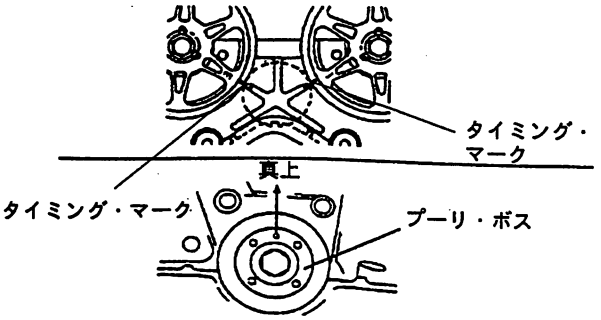
締付けトルク

38～51 N·m {3.8～5.3 kgf·m}

9. クランクシャフトにプーリ・ボス、プーリ・ロック・ボルトを仮締めする。
10. クランクシャフトを正回転方向に2·1/6回転させ、タイミング・マークが合っていることを確認する。

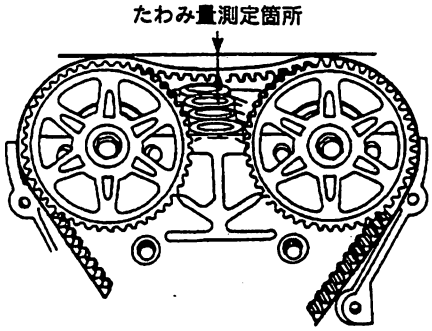
参考

- クランクシャフト側はプーリ・ボスの位置決めピンが真上にあればよい。



11. タイミング・マークが合わないときは、タイミング・ベルト取外し時の留意点から作業を繰り返し行う。(参照：タイミング・ベルト取外し時の留意点)
12. 図示箇所でベルトのたわみ量を測定する。

標準値［98 N {10 kgf}押力時］
B6－ZE［RS］：9.0～11.5 mm
BP－ZE［RS］：8.5～11.5 mm

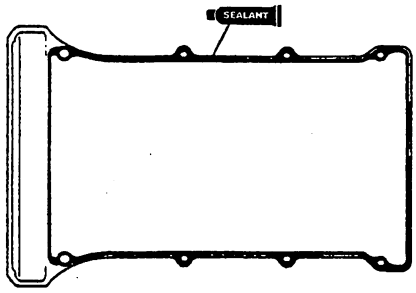


13. 標準値外の場合は、4項からの作業を繰り返し行う。

シリンダ・ヘッド・カバー取付け時の留意点

注意
- シリンダ・ヘッド・カバーのガスケット溝部にオイル、水などを付着させない。

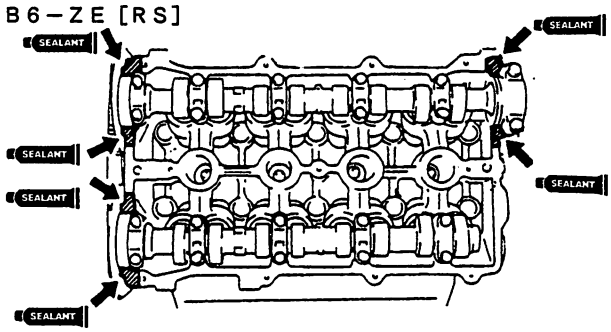
1. シリンダ・ヘッド・カバー溝部にスリーセメントTB1521を塗布する。(B6－ZE［RS］)



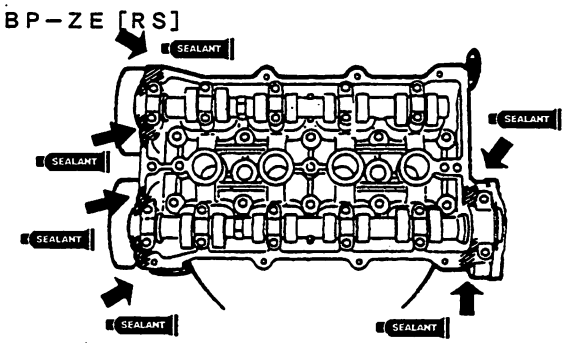
2. シリンダ・ヘッド・カバーに、シリンダ・ヘッド・カバー・ガスケットを取付ける。

3. シリンダ・ヘッドの図示箇所に、SH780M液状ガスケットまたは、液状ガスケットTB1207Bを塗布する。

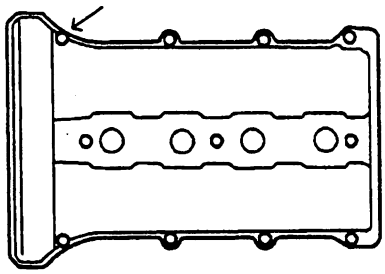
B6－ZE［RS］



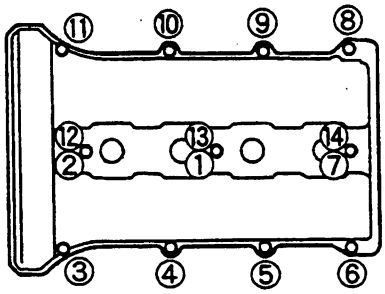
BP－ZE［RS］



4. 図示箇所のシリンダ・ヘッド・カバー・ボルトを仮締めする。



5. シリンダ・ヘッド・カバー・ボルトを図示番号順に2～3回に分けて締付ける。



シリンダ・ヘッド・ガスケット

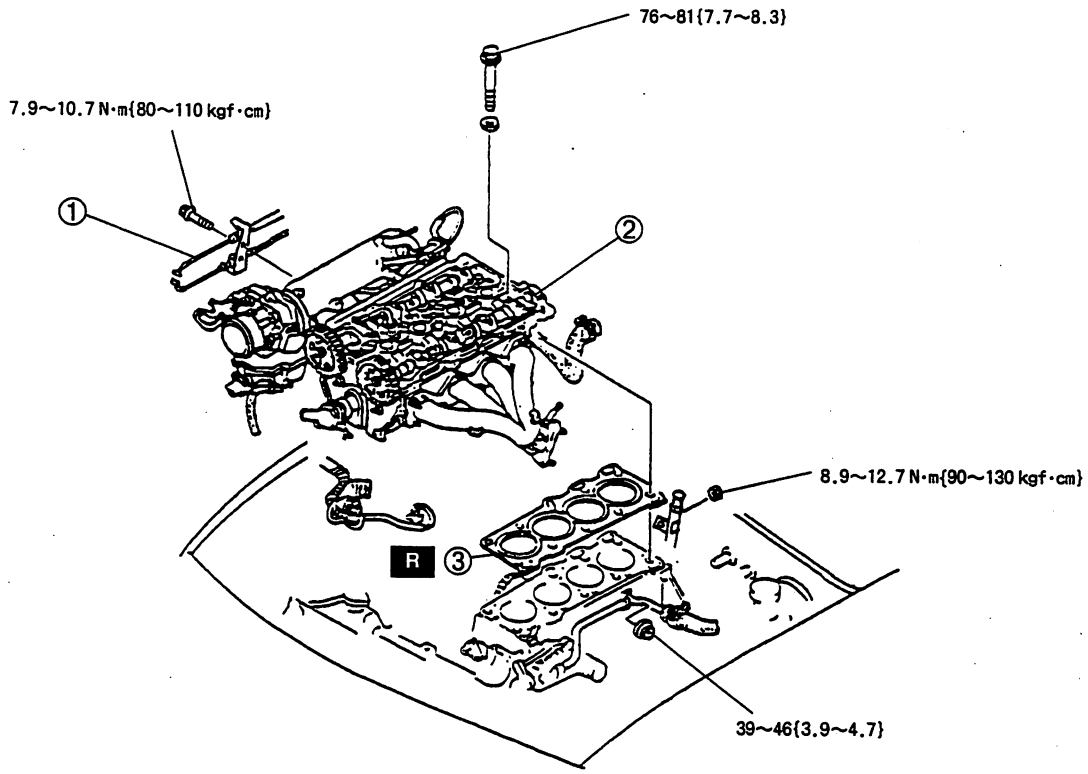
シリンダ・ヘッド・ガスケット交換

警告

- **燃料は容易に引火し非常に危険な為、作業中や燃料の近くは火気厳禁。**
- **燃料が飛散すると皮膚や目を刺激するだけでなく、引火による災害を招く恐れがあるので、作業前に燃料飛散防止作業を行う。(参照：セクションF、燃料装置系統、作業前の注意点)**

1. タイミング・ベルトを取外す。(参照：タイミング・ベルト、タイミング・ベルト取外し／取付け)
2. フロント・パイプ、エキゾースト・マニホールド・インシュレータを取外す。(参照：セクションF、排気装置系統、排気装置系統取外し／取付け)
3. エア・クリーナを取外す。
4. バキューム・ホース、エンジン・ハーネス・コネクタを切離す。
5. フューエル・ホースを切離す。(参照：セクションF、燃料装置系統、作業後の注意点)
6. インテーク・マニホールド・ブラケットを取外す。
7. 図に示す手順で取外す。
8. 取外しと逆の手順で取付ける。
9. エンジン・オイル量を点検する。(参照：セクションD、エンジン・オイル、エンジン・オイル点検)
10. エンジン・オイル、冷却水、燃料の漏れを点検する。
11. 圧縮圧力を点検する。(参照：圧縮圧力点検)
12. エンジンを始動して、アイドル回転数を調整する。(参照：セクションF、エンジン調整、アイドル回転数調整)

シリンダ・ヘッド・ガスケット

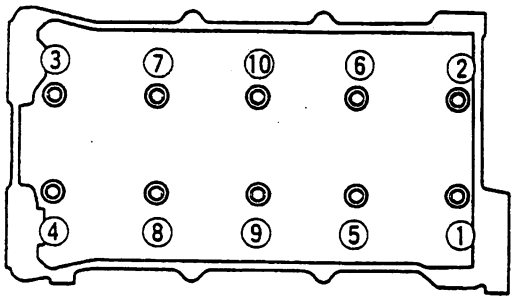


N·m{kgf·m}

1	アクセル・ケーブル・ブラケット
2	シリンダ・ヘッド ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点
3	シリンダ・ヘッド・ガスケット

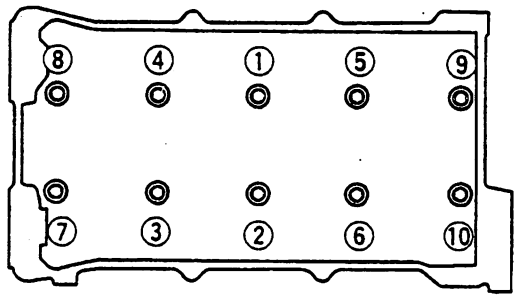
シリンダ・ヘッド取外し時の留意点

- シリンダ・ヘッド・ボルトを図示番号順に２～３回に分けてゆるめ、取外す。



シリンダ・ヘッド取付け時の留意点

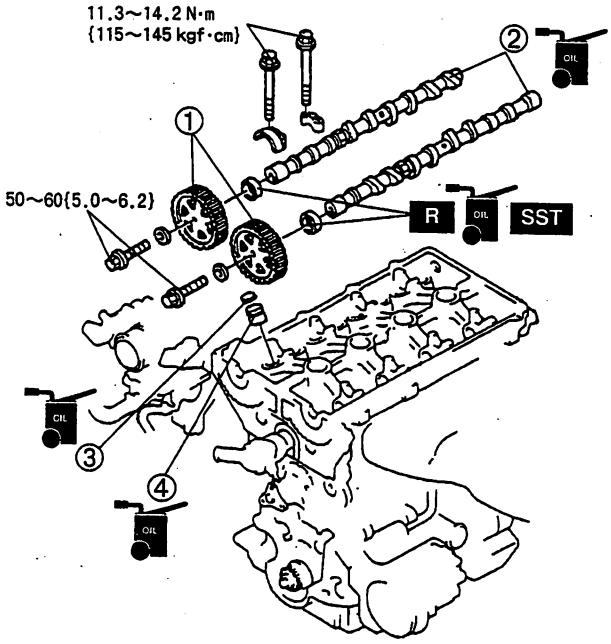
- 図示番号順にシリンダ・ヘッド・ボルトを２～３回に分けて締付ける。



タペット、アジャスト・シム

タペット、アジャスト・シム取外し／取付け

1. タイミング・ベルトを取外す。(参照：タイミング・ベルト、タイミング・ベルト取外し／取付け)
2. 図に示す手順で取外す。
3. 取外しと逆の手順で取付ける。

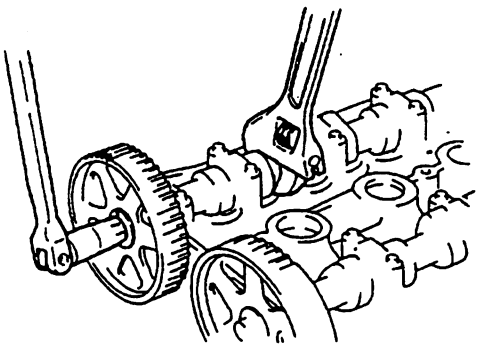


N·m{kgf·m}

1	カムシャフト・プーリ ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点
2	カムシャフト ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点
3	アジャスト・シム
4	タペット

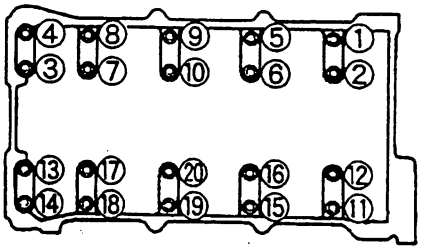
カムシャフト・プーリ取外し時の留意点

- カムシャフトの六角部（図示）をモンキ・レンチ等で回り止めをして、ロック・ボルトをゆるめる。



カムシャフト取外し時の留意点

1. カムシャフト・キャップ・ボルトを図示番号順に2～3回に分けてゆるめ、取外す。



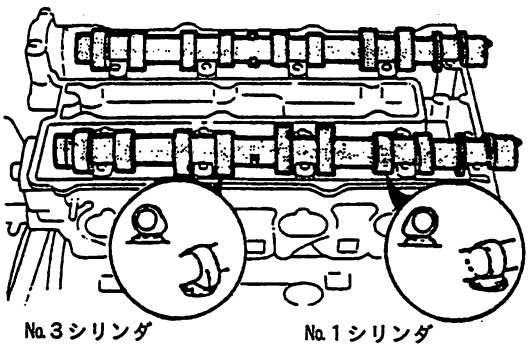
2. カムシャフト・キャップを取外す。

カムシャフト取付け時の留意点

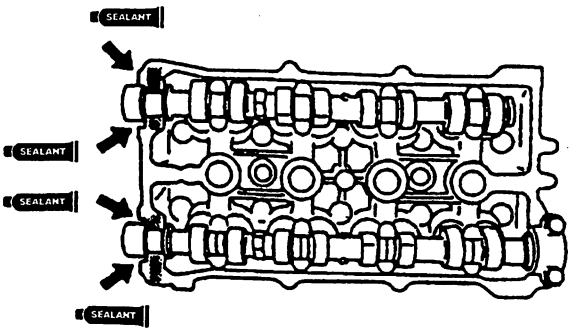
注意

- **カムシャフト・スラスト・クリアランスを小さくしているので、カムシャフトを水平に保ちながら取付ける。**
  水平に保ちながら取付けないと、スラスト部に無理な力が加わり、シリンダ・ヘッド側のスラスト受部にバリが発生する。

1. カムシャフト・キャップ締付け前に、No.1およびNo.3シリンダのカム山が、図の向きになるように組付ける。

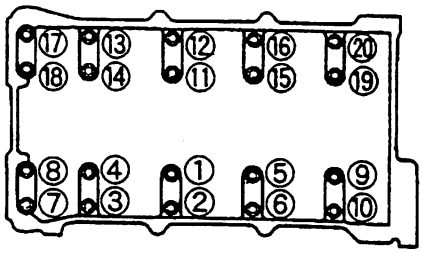


2. 図示箇所にSH780M液状ガスケット又は、液状ガスケットTB1207Bを摺動部にはみ出さないように、塗布する。

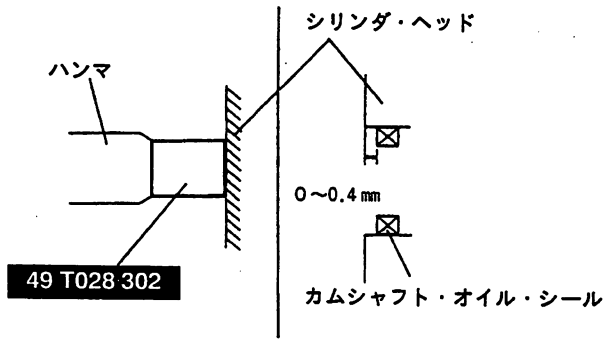


3. カムシャフトおよび、シリンダ・ヘッドのジャーナル受部に、エンジン・オイルを塗布する。
4. カムシャフト・キャップを元の位置に取付ける。
5. 図示番号順にカムシャフト・キャップ・ボルトを２～３回に分けて締付ける。
このとき、№３ジャーナル部のカムシャフト・キャップのボルト２本を締付けるに従って、カムシャフトが水平に沈み込むことを確認する。

締付けトルク
11.3～14.2 N·m{115～145 kgf·cm}

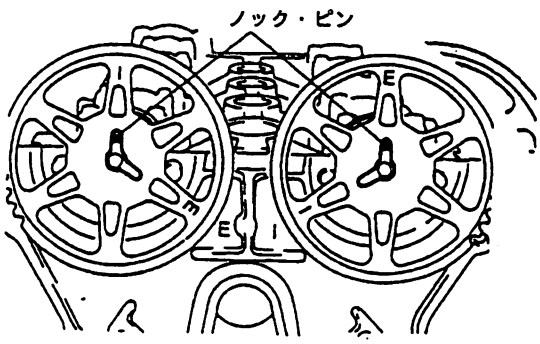


6. カムシャフト・オイル・シールにエンジン・オイルを塗布する。
7. オイル・シールを手で少し挿入する。
8. ＳＳＴを使用してオイル・シールを打込む。

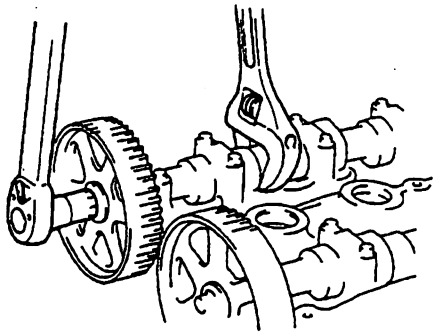


カムシャフト・プーリ取付け時の留意点

1. カムシャフトを回転させ、ノック・ピンが上になるようにする。
2. カムシャフト・プーリの合いマークのＩ（ＩＮ側）及びＥ（ＥＸ側）が真上に向くように取付ける。



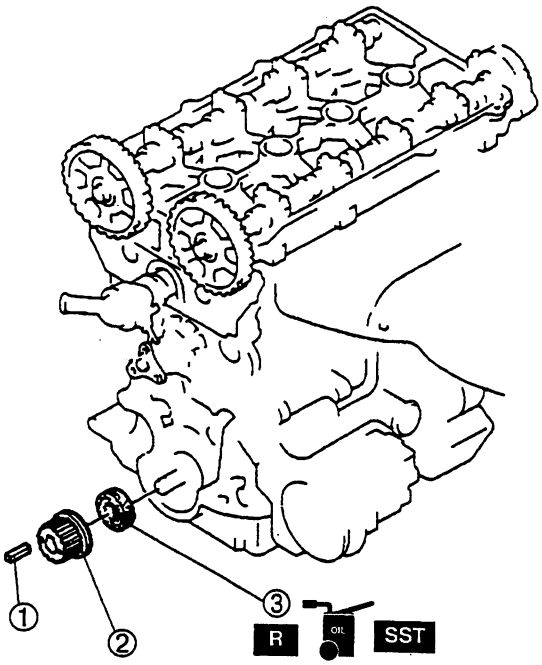
3. カムシャフトの六角部（図示）をモンキ・レンチ等で回り止めし、ロック・ボルトを締付ける。



フロント・オイル・シール

フロント・オイル・シール交換

1. タイミング・ベルトを取外す。(参照：タイミング・ベルト、タイミング・ベルト取外し／取付け)
2. 図に示す手順で取外す。
3. 取外しと逆の手順で取付ける。



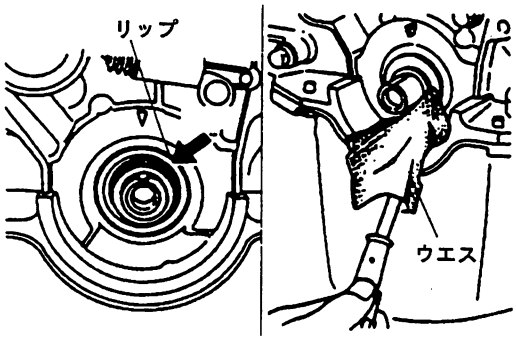
1	キー
2	タイミング・ベルト・プーリ
3	フロント・オイル・シール ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点

フロント・オイル・シール取外し時の留意点

- カッティング・ナイフを使用して、オイル・シールのリップ部を取除く。

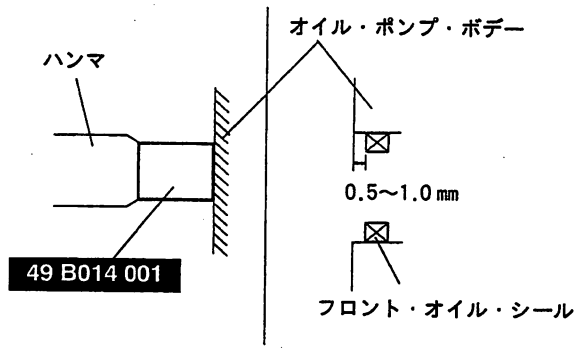
注意

- **クランクシャフトのオイル・シール摺動部に、傷を付けないよう（－）ドライバ先端にウエスをはさみ、オイル・シールを取外す。**



フロント・オイル・シール取付時の留意点

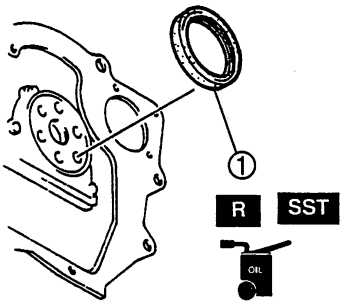
1. フロント・オイル・シールに、エンジン・オイルを塗布する。
2. オイル・シールをオイル・ポンプ・ボデーに、手で挿入する。
3. ＳＳＴを使用して、フロント・オイル・シールを打込む。



リヤ・オイル・シール

リヤ・オイル・シール交換

1. フライホイール（MT）を取外す。
   （参照：セクションH、クラッチ、クラッチ・ユニット取外し／取付け）
2. ドライブ・プレート（AT）を取外す。（参照：セクションK、オートマチック・トランスミッション、ドライブ・プレート取外し／取付け）
3. 図に示す手順で取外す。
4. 取外しと逆の手順で取付ける。



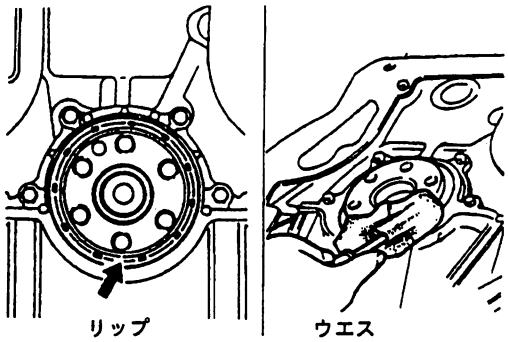
1	リヤ・オイル・シール ☞ 取外し時の留意点 ☞ 取付け時の留意点

リヤ・オイル・シール取外し時の留意点

- カッティング・ナイフを使用して、オイル・シールのリップ部を取除く。

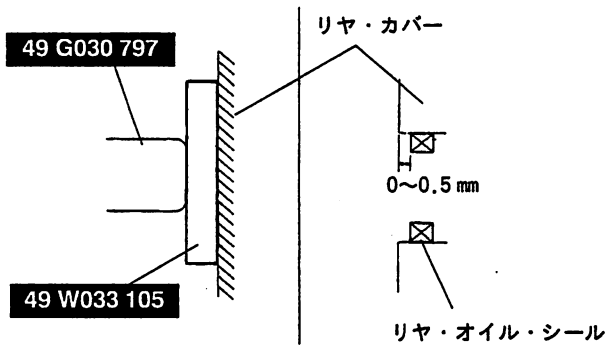
注意

- **リヤ・カバー及びクランクシャフトのオイル・シール摺動部に、傷を付けないよう（－）ドライバ先端にウエスをはさみ、オイル・シールを取外す。**



リヤ・オイル・シール取付け時の留意点

1. リヤ・オイル・シールに、エンジン・オイルを塗布する。
2. オイル・シールを、リヤ・カバーに手で挿入する。
3. ＳＳＴを使用して、オイル・シールを打込む。



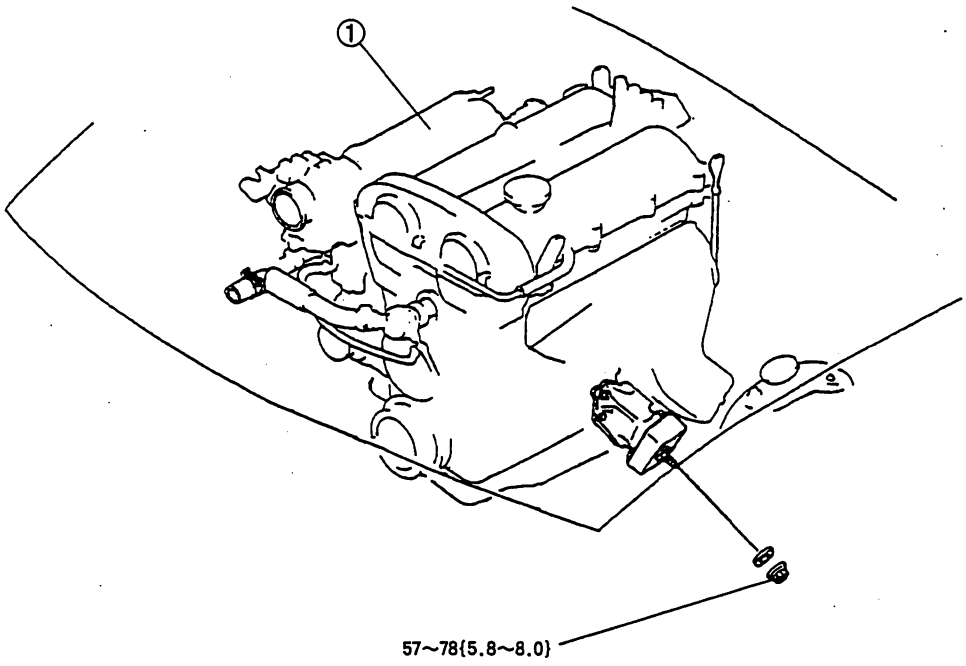
エンジン

エンジン取外し／取付け

警告

- **燃料は容易に引火し非常に危険な為、作業中や燃料の近くは火気厳禁。**
- **燃料が飛散すると皮膚や目を刺激するだけでなく、引火による災害を招く恐れがあるので、作業前に燃料飛散防止作業を行う。(参照：セクションＦ、燃料装置系統、作業前の注意点)**

1. バッテリ（－）ケーブルを切離す。
2. ラジエータを取外す。(参照：セクションＥ、ラジエータ、ラジエータ取外し／取付け)
3. エア・クリーナを取外す。
4. アクセル・ケーブル、ブラケットを切離す。
5. フューエル・ホースを切離す。(参照：セクションＦ、燃料装置系統、作業後の注意点)
6. バキューム・ホース、ハーネス類を切離す。
7. ヒータ・ホースを切離す。
8. ドライブ・ベルトを取外す。(参照：ドライブ・ベルト、ドライブ・ベルト調整)
9. Ｐ／Ｓオイル・ポンプを取外す。Ｐ／Ｓオイル・ポンプは、ホースを切離さないで、かわしておく。(Ｐ／Ｓオイル・ポンプ付車)
10. Ａ／Ｃコンプレッサを取外す。Ａ／Ｃコンプレッサは、パイプを切離さないで、かわしておく。
11. トランスミッションを取外す。(参照：セクションＪ１、マニュアル・トランスミッション、マニュアル・トランスミッション取外し／取付け)（参照：セクションＪ２、マニュアル・トランスミッション、マニュアル・トランスミッション取外し／取付け)（参照：セクションＫ、オートマチック・トランスミッション、トランスミッション取外し／取付け)
12. 図に示す手順で取外す。
13. 取外しと逆の手順で取付ける。
14. エンジンを始動して、下記項目の点検、調整を行う。
    (1) エンジン・オイル、冷却水、トランスミッション・オイル、燃料の漏れ
    (2) 点火時期、アイドル回転数、アイドルＣＯ、ＨＣ濃度（参照：セクションＦ：エンジン調整)
15. 走行テストを行う。

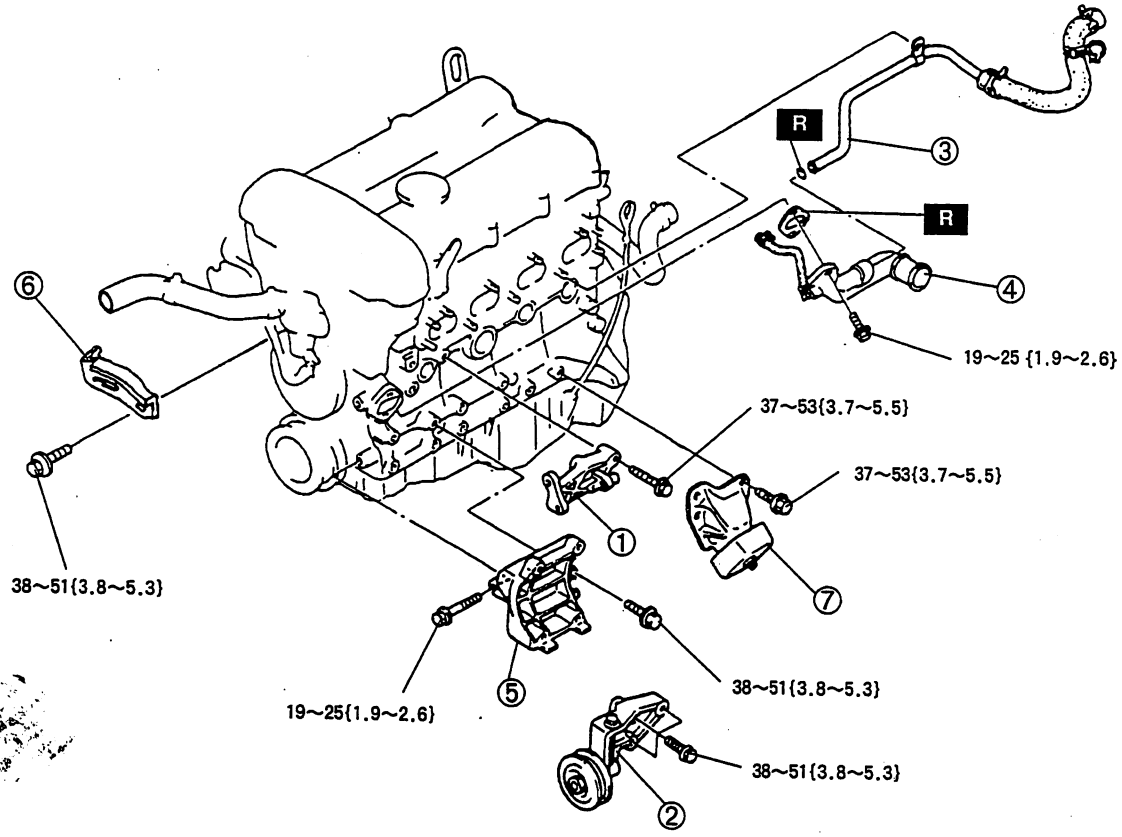


N·m{kgf·m}

1	エンジン

エンジン分解／組付け

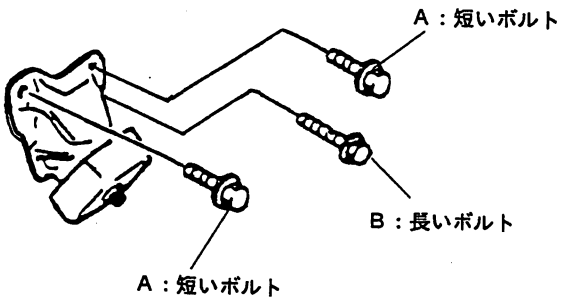
1. オイル・プレッシャ・スイッチを取外す。(参照：セクションD、オイル・プレッシャ点検)
2. 吸気装置系統を取外す。(参照：セクションF、吸気装置系統、吸気装置系統取外し／取付け)
3. 排気装置系統を取外す。(参照：セクションF、排気装置系統、排気装置系統取外し／取付け)
4. オイル・フィルタを取外す。(参照：セクションD、オイル・フィルタ、オイル・フィルタ交換)
5. ハイテンション・コード、イグニッション・コイルを取外す。(参照：セクションG、点火装置系統、イグニッション・コイル取外し／取付け)
6. オルタネータを取外す。
7. 図に示す手順で分解する。
8. 分解と逆の手順で組付ける。



N·m{kgf·m}

1	P／Sオイル・ポンプ・ブラケット（P／Sオイル・ポンプ付車）
2	アイドラ（P／Sオイル・ポンプ無車）
3	ウォータ・バイパス・パイプ
4	ウォータ・インレット・パイプ

5	A／Cコンプレッサ・ブラケット
6	オルタネータ・ストラップ
7	エンジン・マウント ☞ 取付け時の留意点（RH）

エンジン・マウント取付け時の留意点（RH）

- 図示のようにエンジン・ボルトを取付ける。